

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<http://www.sgepss.org/sgepss/>

第 215 号 会 報 2013 年 5 月 10 日

目		次	
会長就任にあたり	中村正人	大志万直人・山口覚・後藤忠徳	11
副会長を務めるにあたって	山崎俊嗣	SPGESS supports US Scientist to Attend	
第 27 期役員選挙結果		Conductivity Anomaly Research Society 2013	
臨時運営委員会報告		Adam Schultz	12
第 26 期第 9 回運営委員会議事録		気象庁地磁気観測所のデジタルデータ	
第 27 期第 1 回運営委員会議事録		ダウンロードサービス	源泰拓 13
総会開催のご案内		助成事業公募のご案内	14
2013 年秋学会特別セッションの募集		衛星設計コンテストのお知らせ	14
学会費納入についてのお知らせ		学会賞・国際交流事業関係年間	
西田先生文化功労者に	藤本正樹	スケジュール	15
「Conductivity Anomaly 研究会」		SGEPSS カレンダー	15
分科会平成 24 年度活動報告		賛助会員リスト	16

会長就任にあたり

第 27 期会長 中村正人



第 27 期地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS) の会長を 3 月 18 日に前任の家森会長から引き継ぎました。一つの期が 2 年ですので $26 \times 2 = 52$ 年前に第一期がスタートした訳ですが、奇しくもこの数字は私の年齢とほぼ一致致します。この様な歴史ある学会の会長として全力を尽くしたいと思います。(学会の創設はそれより

も早く 1947 年で、長谷川万吉先生が 13 年間会長をされ、その後第一期会長として永田武先生のお名前を見ることが出来ます。) 第 27 期は山崎俊嗣副会長も運営委員の皆さんも経験豊富な方々ですので、充実した活動が出来るものと考えております。

本学会は約 700 名の会員から成りたっていますが、昨年の札幌における秋の講演会を振り返りますと 435 件の発表論文、439 名の参加者と、実に会員の半数を大きく越え学会の活動度が極めて高いことが判ります。この傾向は続いており、本学会が今後も発展を続けることは間違いないと考えております。ただ学会参加者の中で学生会員は 27 名 (総数は 38 名) しか居りませんでした。学生による発表は 170 ありましたので、この数は余りに少ないと言わざるを得ません。札幌の総会で学生会員を正会員とは別建ての会員種別とし、会費を一般の正会員の $1/4$ とする規約の改訂をお認め頂きました。このように学生会員入会への敷居をさげ、秋の講演会で発表される学生諸君には学生会員

となってもらい、学会との繋がりを自覚してもらう事は、逆にポストク問題と呼ばれる若手の職が得られないという事に対しても多くの学会員の意識を高め、一筋縄ではいかないにしても解決に向けて学会が一致団結して行く事に繋がると考えます。会員種別に関しまして本年度は海外会員資格に関する改訂を検討していく所存です。

EPS 誌には今大きな変革の波が押し寄せています。国内の状況としては科研費の制度が変わり、国際発信を重視した open access journal へより多くの資金が割り当てられることになりました。EPS は国際情報発信強化 A というカテゴリーで申請をする事に成ります。また、これに合わせて日本地球惑星科学連合 (JpGU) が新たな雑誌を起こそうとしており、科研費に応募しておりますが、その採否にかかわらず 2014 年 1 月に創刊を目指しています。EPS と JpGU のお互いが発展をしていくために EPS を支える 5 学会の会長と小田 EPS 運営委員長、小川編集委員長 (二回目のみ) の懇談会が 2 回行われ、そのうち初回には JpGU の津田会長、新雑誌担当の川幡副会長も参加されました。この話し合いで EPS はレター重視、JpGU 新雑誌はレビューと連合大会での優秀論文を invite する事、また将来的には EPS と JpGU 新雑誌は合流を目指すことが共通に認識されました。Asia Oceania Geoscience Society (AOGS) も JpGU と全く同時期に Open Access Journal を発刊する予定で有り、米国地球物理学連合 (AGU) も同様の企画を持っている事から世界の論文誌が一斉に様変わりをする時代となりました。ここで EPS の更なる発展のために編集委員会、運営委員会の方々も様々な努力をされると思いますが、SGEPSS の会員の皆様にも 2 つ御願ひがあります。一つは EPS への論文投稿をして頂くこと。論文受理から発行までの期間もこれまでに較べ短くされ、さらに電子的に世界のどこからでも見る事が出来るメリットを活かして頂きたいと思ひます。もう一つは日本人の謙虚さからお互いの仕事を引用しない傾向を排して、お互いの仕事を自分の論文の中で紹介するようにして頂きたい。これはインパクトファクター (IF) を引き上げることに繋がります。

学会の財政は幸いに安定しております。西田元会長のご寄付により西田国際学術交流基金を

運用させて頂いて若手研究者の国際会議参加補助数は 40 名以上にのぼります。この基金も昨年度で使い切りましたが、新たに西田元会長から頂いたご寄付をもとに今後も若手研究者を援助していきたいと考えて居ます。ただ、学生会員の会費を下げた入会の敷居を下げたことに伴い、正会員の皆様には若干のご負担増を御願ひするかも知れません。その際にはどうかご協力を御願ひ致します。

今年 1 月には将来構想検討ワーキング・グループによる「地球電磁気学・地球惑星圏科学の現状と将来」が公開され、学会内外に我々の今後の活動がどの様にあるべきかが示されました。地上での観測計画、宇宙での観測計画、コンピューティング環境とそれらの融合した研究が詳しく述べられています。この中で宇宙での観測計画では日本が新たに打ち上げる小型衛星群の 1 号機および 2 号機でそれぞれ極端紫外による惑星プラズマ観測とジオスペース探査が実現されようとしており、当学会の会員の多大な貢献が見込まれます。惑星探査に目を向けると金星探査は時期が遅れましたが 2015 年に金星周回軌道投入が予定されており、2015 年には水星探査機も地球を飛び立ちます。ESA の大型木星探査に日本から貢献する中に SGEPSS 会員が多く含まれていることも明るいニュースです。地上に目を向けると赤道 MU レーダーの計画や極域での新たなレーダー計画、国際深海掘削計画、その他の多くの大中小の計画に SGEPSS 会員が果敢に取り組もうとして居ることが判ります。是非会員の皆様におかれましてはこのレポートをもとに学会の外への発信を御願ひ致します。

今後 2 年間、会員の皆様に支えて頂き、更なる学会の発展に尽くしたいと思ひます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

副会長を務めるにあたって 山崎俊嗣



このたび副会長に選出されました、東京大学大気海洋研究所の山崎です。当選の知らせを海洋調査船上で受けた時は、そのような器にない私になぜと青天の霹靂で、大役に身が引き締まる思いです。中村会長の下で副会長としての任務を全力で遂行し、また2年後に備えて修行を積みみたいと思いますので、会員の皆様のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いします。

私は古地磁気・岩石磁気・磁気異常を専門とし、SGEPSSでは少数派のいわゆる固体系であります。昨年9月に東京大学大気海洋研究所に異動するまでは、かつて国立研究機関であった地質調査所、現在の独立行政法人産業技術総合研究所に勤務してまいりました。大学の抱える様々な問題についてはまだまだ勉強不足であります。独法と大学の両方に所属した経験を生かすことができると思っています。

私は、4年前までの第21～24期に運営委員をさせていただきましたが、忘れもしないのは、藤井会長のもとで総務を拝命していた時に学会事務センター破産問題が発生したことで、結果としてその事後処理に時間を割かれることとなってしまいました。今回は、このようなネガティブな問題の後始末ではなく、SGEPSSの発展的将来のために微力ながら貢献できればと思います。

副会長・会長の任期となる今後4年を今から見通すのは困難ですが、重要な問題の一つはジャーナルでしょう。現在検討が進んでいるEPSのオープンアクセス・完全電子ジャーナル

化は、科研費による出版助成制度が大きく変わるといふ「外力」がきっかけではありますが、欧米の一流誌に太刀打ちできる雑誌にする最後のチャンスであると思います。そして、助成金による支援は採択されたとしても5年で自立することを求められますから、時間はありません。成功のためには、オープンアクセス等の仕掛けももちろん重要ですが、皆様により論文を投稿していただくことに尽きると考えております。自分たちの手で一流の雑誌に育てるといふ決意・覚悟を持つことが重要で、それがなければ、インパクトファクターの数値目標などは絵に描いた餅でしょう。会員の皆様のご協力を是非お願いします。また、EPSは将来的にはJpGUが創刊する新雑誌と合流を目指すこととなっておりますが、「合流」の具体的な検討はこれからです。国内で競合するようなことになれば共倒れになりかねませんから、ぜひ発展的に「合流」できるよう、私としても力添えできればと思います。

第27期役員選挙の結果

第27期役員選挙投票は去る1月22日に開票されました。その後、中村正人新会長を中心とした運営委員長枠の検討の結果、以下のように確定しましたのでお知らせします。

(第26期運営委員・総務 塩川和夫)

=== 選挙結果 ===

副会長	投票総数	171
氏名	得票数	
山崎俊嗣	43	当選
渡部重十	36	次点
大村善治	20	
以下省略		

評議員	投票総数	171
氏名	得票数	
1 津田敏隆	127	当選
2 藤井良一	119	当選
3 歌田久司	116	当選
4 大村善治	110	当選
5 渡部重十	102	当選
6 浜野洋三	89	当選
山崎俊嗣	78	(副会長)

7 小野高幸	72	当選
8 山本衛	57	当選
9 湯元清文	48	当選
小原隆博	42	
深尾昌一郎	39	
石井守	24	
以下省略		

評議員は家森俊彦前会長を加えた10名となります。なお、評議員当選については内規に以下のように定められています。

内規第2条2：評議員の選出は9名連記無記名投票を行い、得票数の順位に従って上位9名を当選者とする。なお得票同数者がある場合には年長者を当選者とする。評議員については、選挙で選ばれても辞退することができる。

運営委員	投票総数	174	
1 塩川和夫	148		当選
2 篠原育	136		当選
3 小田啓邦	136		当選
4 藤浩明	136		当選
5 畠山唯達	134		当選
6 中村卓司	126		当選
7 小嶋浩嗣	125		当選
8 馬場聖至	124		当選
9 坂野井和代	121		当選
10 尾花由紀	114		当選
11 吉川顕正	109		当選
12 村田功	106		当選
13 村山泰啓	101		当選
長谷川洋	100		会長枠
大塚雄一	88		会長枠
吉川一朗	86		会長枠
笠羽康正	73		
岡田雅樹	69		
以下省略			

「会長枠」については内規に以下の通り定められています。

内規第2条3. 運営委員については下記の様式に従い13名連記無記名投票を行い、合計得票数の順位に従って上位13名を選出する。得票数が同数の場合は年長者を上位とする。新会長は運

営委員会の継続性ならびに運営委員所属機関等のバランスを考慮し、新副会長、新旧運営委員と協議の上、定数16名の残り3名を選出する。
(塩川和夫)

2012年度臨時運営委員会 報告

日時：2013年1月30日 15:30～17:00

場所：TV会議（親局＝京大地磁気センター，
子局＝宇宙研・東北大・名大・九大・生存圏・東大地震研・情報通信機構）

出席者：15名出席（総数18名、定足数11名）

会長：家森俊彦、副会長：中村正人

運営委員：尾花由紀、小嶋浩嗣、坂野井和代、塩川和夫、篠原育、清水久芳、藤浩明、長妻努、長谷川洋、畠山唯達、村田功、山本衛、吉川顕正

欠席：小田啓邦、中村卓司、吉川一朗

議事

1. 国際学術交流事業の審査（清水）

・若手派遣事業三件，海外研究者招聘事業三件の計六件の応募があった。

・議論の結果，派遣／招聘それぞれ一件ずつ採択する事にし，若手派遣事業では西山尚典会員の，招聘事業については山本裕二会員（招聘者：松井宏晃氏）の申請を採択した。採択者には清水運営委員から通知すると共に，最も安価な旅程を検討してもらうよう再度お願いする。

2. 2月〆切の各賞について

・2月末〆切の各賞について再確認して欲しい，との要請が会長よりあった。これを受けて，長谷川・永田賞，学会特別表彰，フロンティア賞の各賞のリマインダを全会員に向け塩川総務から流す事になった。

3. 現学生会員の意向調査について（藤）

・昨年10月の総会での規約改定に伴い学生会員の権利義務が変更される為，来年度も学生会員として残留するか，或いは，新年度からは正会員を選択するかの意向調査を，現学生会員全員に対して行う事になった。調査は庶務が担当する。

・シニア会員への移行手続き（2月末〆切），学

生会員の資格更新手続き（3月末〆切）のアナウンスは例年通り行う。

4. 新しい学会規約について

・新しい学会規約の解釈が会員によってまちまちであっては困る、との意見が出され、新規約の確認の為、10月の総会で改定ないし追加された学会規約・内規・学生会員の運用に関する申し合わせの三つを、山本運営委員から運営委員会へメールで再回覧する事とした。

5. 次回運営委員会

・3月18日11時～。27期と合同で、場所は東大地震研。

(藤 浩明)

第26期第9回運営委員会報告

日時：2013年3月18日 11:00～16:00

場所：東大地震研第2会議室

出席者14名（総数18名、定足数11名）：家森俊彦（会長）、中村正人（副会長）、小田啓邦、坂野井和代、塩川和夫、篠原育、清水久芳、藤浩明、長妻努、長谷川洋、畠山唯達、村田功、山本衛、吉川顕正

欠席4名：尾花由紀、小嶋浩嗣、中村卓司、吉川一朗

オブザーバー（第27期運営委員）4名：山崎俊嗣（第27期副会長）、大塚雄一、馬場聖至、村山泰啓

1. 前回議事録の確認（塩川）

・第26期第8回運営委員会の議事録を確認し、承認した。

・第26期臨時運営委員会（2013年1月30日）議事録を確認し、承認した。

2. 協賛・共催関係（藤）

・下記の共催依頼1件について審議し、承認した。「第21回衛星設計コンテスト」

主催：財団法人日本宇宙フォーラム、日本機械学会、日本航空宇宙学会他

開催期間：2013年4月－11月

開催場所：一橋記念講堂（2012年度の最終審査会会場）等

・上記コンテストの第21回実行委員として、中村第27期会長と坂野井委員を選出した。企画委員は中田会員が継続する。審査員は笠原会員（金沢大学）をお願いすることとなった。

3. 1. 入退会審査（藤）

・入会審査：昨年の秋学会以降、以下の6名が学生会員として入会した。

佐藤哲郎（東北大学、紹介会員：中村教博・藤浩明）

中坊孝司（名古屋大学、草野完也・関華奈子）

羽田裕子（京都大学、菊池崇・橋本久美子）

東森一晃（東京大学、星野真弘・天野孝伸）

前田隼（北海道大学、渡部重十・栗原純一）

三國屋しおり（東北大学、中村教博・藤浩明）

・以下13名のシニア会員移行を承認した。

鶴飼正行、菊池崇、佐川永一、佐藤夏雄、中塚正、新妻信明、半田駿、深尾昌一郎、前田耕一郎、前田佐和子、巻田和男、南繁行、宮原三郎

・以下の8名の退会を承認した。

宗包浩志、小林慧、上田裕子、中川晃成、小山茂、石本美智、横山信博、宇野健（学生会員）

・学生会員資格更新申請9名を承認した。学生会員制度の変更に伴い、資格更新手続きの催促通知は今後送らないこととした。

3. 2. 現学生会員への意向調査結果（藤）

・昨年10月の総会での規約改定に伴い学生会員の権利義務が変更されるため、現学生会員全員に周知を行うとともに、意向調査を行った。

4. 助成関係（清水）

・国際学術若手派遣・海外研究者招聘について、平成25年度の募集日程案が提示され、確認を行った。

・西田基金について：西田篤弘会員からの多額の寄附を基に、平成13年度に設立された西田国際学術交流基金は、計39名の若手海外派遣と4名の外国人研究者招へいで平成24年度使い切ったが、西田会員のさらなるご厚意により、今年100万円を追加で寄付していただき、基金が継続されることとなった。しかし、今後の資金繰りについては検討が必要である。

5. 選挙結果報告（塩川）

・資料に基づいて報告。

6. 第10回「日本学術振興会賞」(対象:45歳未満の若手研究者、受付期間:平成25年4月15日(月)~17日(水))の推薦依頼について
・会員からの推薦はなかった。このような学術賞等の推薦依頼には、会員が敏感に反応するとともに、学会として戦略的に対応していく必要がある。そのための推薦委員会を運営委員会内に設置することとなった。

7. 第26期運営委員会の総括(会長)
・資料に基づいて第26期の総括が行われた。

8. 各担当からの報告・次期への引継ぎ

8.1. 総務(塩川)

・資料に基づいて報告。財団等への推薦を何件か行ったが、採択率が低かったため、推薦内容の精査など、推薦方法の改良が必要と思われる。

8.2. 庶務(藤・長谷川)

・資料に基づいて報告。海外会員の扱いについては、今後も議論の継続が必要。

8.3. 会計(村田・小嶋)

2013年度からの学生会員新制度の開始に伴う変化:

・学生会員の入会は、4月から7月(秋学会予稿登録まで)の間も受け付け、郵便物等の送付を開始するが、会費の徴収は秋学会受付時に行うこととする。今後は学生会員には春の会費徴収案内を送付しない。MMB(会員管理システム)で学生会員が会費を納入できないように設定できるか調査する。

・学生会員継続申請は不要となったが、学生会員には正会員への移行手続きについての案内を3月中に出すこととなった。学生会員専用のメーリングリストを立ち上げ、そこに正会員移行手続きの案内を出す。

・秋学会に参加するが発表しない学生には、以下のどちらかを選択させることとした。

1) 会員になる場合は入会申し込みの上、学生参加費を支払う。

2) 会員にならない場合は、非会員一般参加費を支払う。

・HPの更新:学生会員としての入会手続き、正会員への移行手続き方法についての案内HPの修

正案を、Web担当、庶務、会計で作成し、運営委員会で確認することとなった。

・秋学会投稿システムの変更あるいは修正と、MMBの修正:詳細については、畠山委員(秋学会)、小嶋委員(会計)、中村卓司委員(投稿システム調査)が検討し、検討結果を村田委員が確認し、運営委員会で承認することとした。

8.4 雑誌(小田・吉川顕正)

・資料に基づいて報告。

・EPS誌の状況:2012年11月提出の科研費(国際情報発信強化A)申請書類には、2016年1月から、EPS誌はJpGUと共同出版を行うことを記述しており、JpGUからEPS誌の運営委員会と編集委員会に委員を出してもらうこととなっている(JpGUオブザーバーは、2014年から入る予定)。東日本大震災特集号(2011年7月号)の効果で、引用度数が上昇した(暫定的計算によると2012年IFが2.5を超える見込み)。

・JpGU新ジャーナルについて:4月2日に運営委員会を開催予定。入札準備を開始、雑誌名はPEPSI(Progress of Earth and Planetary Science)の予定、IF2.5を目指している。

・3/21にEPS関連5学会会長懇談会を開催する。EPS誌に適した出版社等について議論される予定。JpGU誌とEPS誌の両方が軌道に乗った場合には、EPS誌のJpGU誌への合流はEPS誌にとって大きな問題はない。JpGU新ジャーナル/EPS誌のいずれかあるいは両方が科研費不採択という場合も考えておく必要がある。

・平成25年度科研費(国際情報発信強化A)には、EPS誌を含む26以上の学会が申請している。また、AOGSもレター誌(オープンアクセス)の準備を進めている。

8.5. 秋学会(中村卓司・藤・篠原)

・資料に基づいて報告。検討中のプロアクティブの予稿投稿システムについて説明がなされた。会員ID番号によるMMBシステム情報の参照が可能である。

8.6. 連合大会プログラム委員(篠原・清水)

・3学会(物理学会・天文学会・SGEPSS)合同プラズマセッション(3日間にわたり70人以上が参加)を、2013年度秋学会(高知)で開催することが可能かどうか調査することとなった(秋

学会担当)。

8.7. 連合対応(山本・小田・坂野井・吉川顕正)
・JpGU環境災害対応委員会:資料に基づいて報告。
委員の任期は2年。環境と災害の2つのWGからなる。災害WGでは、宇宙災害との関連から、宇宙天気等の話題についても紹介し、他分野にアピールしていく意義はある。

8.8. 広報Web(小嶋・中村卓司・吉川顕正)
・資料に基づいて報告。メーリングリストのアドレスの更新を、月1回程度行っている。

8.9. 広報会報(吉川一朗・吉川顕正・村田)
・資料に基づいて報告。現在は会報印刷を三愛企画(豊橋の印刷会社)に依頼している。

8.10. アウトリーチ(畠山・尾花・長妻・坂野井)
・資料に基づいて報告。2012年秋学会でのアウトリーチイベントの総括が行われた。札幌市からの助成金等のおかげで、SGEPSSの広報予算を使用せずに済んだ。
・秋学会でのアウトリーチ活動の会計管理を、会計のどちらか一人が担当することとなった。

8.11. 男女共同参画(長妻・尾花)
・主な活動:男女共同参画学協会連絡会の運営委員会に参加し、情報収集を行うとともに年1回開催されるシンポジウムにおいてSGEPSSの活動報告・紹介を行っている。秋学会でLOCと協力して託児室の運用を行っている。SGEPSS男女共同参画提言WGの会合(最近では2012年秋学会時に開催)を適宜開催し、キャリアパスやポスドクの問題を含めて、議論を行っている。
・毎年開催の女子中高校生夏の学校については、今後JpGUの枠組みを利用して活動する方向に移行していく(長妻会員が2013年度の実行委員長)。また、キャリアパスやポスドク問題の提言を行う場合も、より大きな枠組みで実施する方が効果的なので、JpGUの枠組みを活用する。

8.12. 助成金(清水)・学生発表賞(長谷川)
・国際学術研究集会補助の募集については、sgepssallと会報にて、総務からではなく、助成金担当から案内を出すこととなった。

・助成金を受けた人の報告書の提出(当該活動の終了後30日以内)についても、助成金担当から連絡することとなった。

・学生会員の規約の改定に伴い、学生発表賞の審査対象は、「学生会員」に限定することとした。
・学生発表賞事務局作業の円滑化のため、学生会員の所属やメールアドレス情報を投稿システムからダウンロードすることが可能か、また公開以前の予稿の内容を審査員に提供することが可能か、調査することとなった。

(長谷川洋)

第27期第1回運営委員会報告

日時:2013年3月18日(月) 16:00~18:00(第26期運営委員会に引き続き開催)

場所:東京大学地震研究所 第2会議室

出席者(総数18名、定足数11名、出席14名、欠席4名)

会長:中村正人、副会長:山崎俊嗣

運営委員:大塚雄一、小田啓邦、坂野井和代、塩川和夫、篠原育、藤浩明、長谷川洋、畠山唯達、馬場聖至、村田功、村山泰啓、吉川顕正

欠席:尾花由紀、小嶋浩嗣、中村卓司、吉川一朗

議事

1. 役割分担

第27期運営委員の役割分担を確認し、了承した。各委員の分担は以下の通り。

総務: 篠原育

庶務: 長谷川洋(主)・馬場聖至(副)

会計: 小嶋浩嗣(主)・大塚雄一(副)

雑誌: 小田啓邦(主)・村山泰啓(副)

秋学会: 畠山唯達(主)・藤浩明(副)・吉川顕正(副)

連合大会プログラム委員: 中村卓司(主)・馬場聖至(副)

連合対応: 小田啓邦(環境)・尾花由紀(男女共同参画)・坂野井和代(キャリアパス)・吉川顕正(災害)

広報web: 村田功(主)・畠山唯達(副)

広報会報: 吉川顕正(主)・尾花由紀(副)・吉川一朗(副)

アウトリーチ： 坂野井和代（主）・塩川和夫（副）
男女共同参画： 尾花由紀（主）・坂野井和代（副）・村田功（副）

助成金： 藤浩明（主）・塩川和夫（副）

学生発表賞： 大塚雄一

プラズマ宇宙物理セッション対応： 吉川一朗

※各役割の前期担当者がアドバイザーとして今期担当者を適宜サポートする。

※アウトリーチ担当の人数が減っているため、秋学会のアウトリーチイベント時に必要に応じて他の委員が協力（特に会計担当）すること、科研費が採択された場合はアウトリーチの会計担当を設けることを申し合わせた。

第 27 期委員と役割分担をホームページに掲載する。

2. 秋学会関連

・LOC の準備状況、および投稿システムの変更問題について、現況を確認の上、引き続き運営委員会でメールにて審議することとした。

・特別セッションについては、メールで募集した後、JpGU 期間中の運営委員会で採択を決めることが確認された。

3. 分科会申請：

「小型天体環境分科会」の設立が承認された。

4. 内規改定（長谷川）

・学生発表賞内規の「対象」を以下のように改訂する。

(1) 学生（博士課程以下、研究生を含む、PD は含まない）が第一著者かつ発表者の論文

(2) オーラルとポスターは同一基準で評価する。

(3) 秋期講演会における全ての学生会員による発表を対象とする。

※学生だが正会員の場合は対象とならない。

・国際学術交流事業運用内規の「応募資格 (2)」を以下のように改訂する。

(2) については 37 才以下（応募期日時）の地球電磁気・地球惑星圏学会正会員および学生会員。（以下は修正無し）

・内規最新版をホームページに掲載し、運営委員で共有することが確認された。

5. EPS 関連（小田）

・テラパブとの H25 年度覚書案、H24 年度 EPS5 学会間覚書案、ならびに H25 科研費に関する調達に関するルール案と入札仕様案が示された。

・テラパブとの覚書について、EPS 運営委員会で議論、テラパブの意見も聞いた上で文書作成し覚え書きを取り交わすことが確認された。

・新しい出版社と契約した場合のバックナンバーの移行について、会員が不利益を被らないように著作権等について検討を進めた上で、改めて運営委員会にて議論する。

・科研費と分担金の仕分けを明確にする必要があることが指摘された。

・科研費について、調達に関するルールを定める必要がある（ルールは SGEPS5 内規とする予定）ので、EPS 参加 5 学会の分担金の取り扱い方法も含めて EPS 運営委員会で議論をして、弁護士にも相談のうえ具体案を作成し、次回の運営委員会にかけることが確認された。

6. 国際磁気標準（小田）

国際磁気標準のキャンペーン（キャンペーン参加の各国国家標準センターおよび地磁気観測所のキャリブレーションリストを作って公開する）について、柿岡地磁気観測所の参加意向を確認し、次の運営委員会で結果を報告することが確認された。

7. 次回運営委員会・評議会・総会

下記の通り、日程を決定した。

運営委員会：5月20日（月）

18:15～20:15 202室

評議会：5月21日（火）

18:15～20:15 102B室

総会：5月23日（木）

13:00～14:00 303室

8. その他

8.1 IUGG 分科会報告（山崎）

・特任連携会員と小委員会について、IAGA 小委員会に連携会員がいないので SGEPS5 関係の会員・連携会員に適任者を推薦してもらうよう働きかけるべきであること、IUGG が次回から表彰をすることになったが、IAGA 小委員会から推薦をするので、SGEPS5 運営委員会の協力を要請する旨、報告された。

・2017年のIAGA, IAMAS, IAPSO合同学術総会の日本開催打診がIASPOからあったが、IASPO小委員会では立候補しない方針である。IAGA小委員会でも積極的に立候補する意志はないと回答する方針が報告され、SGEPSS運営委員会でも了承された。

・関連して、World Data Systemの国際オフィスが日本にあり、学術会議の会長・副会長と直接連絡する機会が増えたので、IUGG等が学術会議の中で地位が上がるように有効利用して頂きたいとの意見があった。

8.2. 長谷川・永田賞および特別表彰の推薦について

担当委員を決めて、答申を次回評議会までにまとめることが確認された。

8.3 国内・国際学会の賞や委員等を推薦する上で、組織的に調査するために運営委員会にタスクフォースを立ち上げた。メンバーは、山崎副会長・村山委員・塩川委員・馬場委員（事務局）

8.5 会員制度改革

H25年秋の総会で海外会員の見直しを提案することを目指し、山本衛会員がとりまとめる。

（馬場聖至）

第133回総会開催のご案内

第133回総会を連合大会開催中の以下の日時に開催します。

開催日時：平成25年5月23日（木）

13:00-14:00

開催会場：幕張メッセ国際会議場3階303会場

（日本地球惑星科学連合2013年大会会場）

学会賞授与などの重要な議事がありますので、会員の方はぜひご出席ください。やむを得ず欠席される場合には、事前に委任状を会長宛てに郵送いただくか、運営委員にお渡しください。また、電子メールでの委任状受領ができます。詳細はメーリングリストにてお知らせします。

（篠原育）

2013年秋学会

特別セッションの募集

2013年秋学会（11月2日～11月5日）の講

演会開催に向けまして、「特別セッション」のご提案を広く会員の皆様から募集致します。「特別セッション」の詳細は下記の通りです。次の内容を添えてご応募下さい。

1. コンビナー：名前、所属、連絡先
2. セッションタイトル（日本語および英語）
3. セッション内容説明
4. 特別セッションとして行う意義
5. セッションの規模（参加見込人数）

応募先：fm@sgepss.org

締切：2013年5月17日（金）17:00

ご応募頂いた提案は、運営委員会で検討した後、結果を会報やホームページ等で周知させて頂きます。多数のご応募をお待ちしております。尚、ご質問等は運営委員会・秋学会担当委員までご連絡下さい。

（秋学会担当運営委員：畠山唯達、吉川顕正、藤浩明、中村卓司）

記

○「特別セッション」について

学会及び秋の講演会の活性化を図るために、秋学会では「特別セッション」を設けています。「特別セッション」は、次のような内容を議論する場として位置づけられています。

・レギュラーセッションとは別枠で議論する話題性のある内容（時機にあった話題、重要テーマなど）

・当学会内、また他学会も含めたような、分野横断的な内容

特別セッションでは、講演数の制限を緩め、レギュラーセッションと重複した講演申込も可能となっています。これまで開催された特別セッションは以下の通りです。

・2004年秋：「宇宙天気」

・2005年秋：「宇宙進出とSTP科学の接点」

「SGEPSSにおける小型衛星の可能性」

・2006年秋：「地上－衛星観測・データ解析・モデリングの統合型ジオスペース研究に向けて」

「地球惑星磁気圏探査：将来計画～これからの黄金の20年とするために～」

・2007年秋：「STE研究における地上ネットワーク観測の現状と将来展望」

「SGEPSS 創立 60 周年記念特別セッション：地球電磁気学の歩み」

・ 2008 年秋：「南極昭和基地大型大気レーダーによる超高層大気研究の新展開」

「地震学と地球電磁気学の境界領域研究」

・ 2009 年秋：「月周回衛星『かぐや』観測による STP 研究の新展開」

・ 2010 年秋：「SGEPSS における最新の月科学：『かぐや』から次の時代へ」

・ 2011 年秋：「電離圏変動と地震の関係」

・ 2012 年秋：「地殻・大気・電離圏結合」

「地球電磁気・地球惑星圏科学の将来構想」

(畠山唯達)

学会費納入についてのお知らせ

2013 年度学会費納入の案内が届いていることかと思いますが、所定の方法によってお支払い頂きますよう、お願い申し上げます（納入期限：7 月 31 日）。学会の様々な活動を支える財政基盤は会員の皆様に納入して頂く会費にあり、未払いがありますと健全な学会運営に重大な支障をきたします。督促作業には経費とともに人的コストが相当かかりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

なお、学生会員については先の総会で了承されましたように秋学会への参加費として会費は領収されますので、今回の学会費納入案内は行いません（正会員へ移行になる会員には案内をお送りしました）。秋学会不参加等の理由で別途会費納入を希望する学生会員は事務局までご連絡をお願いいたします。

当学会の会費納入は以下の 5 つの方法よりお選びいただけます。

- (1) 銀行振込（校費払いも可能）
- (2) 銀行口座自動引き落とし（7 月下旬に引き落とし予定）
- (3) クレジットカード払い
- (4) コンビニエンスストアでの支払い
- (5) 春・秋学会開催時の受付窓口での支払い（現金のみの取り扱い）

学会費の支払い方法変更については随時受け

付けておりますが、基本的には翌年の支払い時から有効となります。もし今年度の学会費支払い方法を変更されたい場合は至急事務局 (sgepss@pac.ne.jp) にご連絡ください。

銀行口座自動引き落とし、およびクレジットカード払いについては、学会が手数料を負担します。毎年の支払いの手間をはぶくには、銀行口座自動引き落としが便利でお勧めです。ご希望の方は書面による手続きが必要となりますので事務局へお問合せください。

平成 25 年度の連合大会においても、学会受付デスクに会費支払い窓口を設けます。開設予定は、5 月 22 日（水）の午後、23 日（木）の全日、および 24 日（金）の全日（ただし最終日は 16 時頃まで）です。

(会計担当運営委員：小嶋浩嗣・大塚雄一)

西田篤弘会員文化功労者に選ばれる 藤本正樹



西田篤弘会員（宇宙科学研究所名誉教授）は、太陽風と地球磁場の相互作用で作られる磁気圏ダイナミクスの研究や平成 4 年に打ち上げられた磁気圏尾部観測衛星ジオテイルの実現から数多くの研究成果の達成までの尽力、等、電磁流体力学を基盤とする宇宙空間物理学の確立に貢献したこと、等の功績により、平成 24 年 11 月 3 日、文化功労者に選出されました。このたび、文化功労者として叙せられたことに、心よりお祝い申し上げます。

西田会員は非常に多くの重要なご業績をあげられましたが、中でも磁気圏物理学の新しいパラダイム構築にかかわるご業績は比類無きものであるといえます。西田会員のご研究によって、現在我々磁気圏物理学の研究者が持っている磁気圏描像が確かなものになったと言っても過言

ではありません。また、1990年代に宇宙科学研究所がアメリカのNASAと共同で実施したジオテイル衛星計画は、西田会員の指導力と国際的な活躍によって初めて実現したものであり、今に至るまでの20年間、磁気圏の新しい描像を築き続けています。このジオテイル衛星のお陰で、西田会員の志を受け継ぐ多くの後進が育てられ、我が国の磁気圏研究者が世界を舞台に活躍できるようになったことは紛れも無い事実です。

去る2月24日には、各方面から多数のご来賓をお招きして、記念祝賀会が執り行われました。ご来賓から頂きたいずれのご祝辞もこれまでの西田会員の素晴らしいご業績、卓抜した指導力と国際的な活躍、そして西田会員が我が国の宇宙科学の発展のためになされたご尽力を讃える素晴らしい内容でした。祝賀会では、家森会長から西田交流基金への感謝状が贈られました。祝賀会の最後の西田会員からのご挨拶では、お世話になった恩師の方々について話をされましたが、これはまさに磁気圏物理学の新たな時代を切り開いてこられた偉人達の系譜をたどることであり、宇宙科学を発展させるべき私達後進を奮起させる内容でした。西田会員の今後のご健康とご多幸を心よりお祈りすると同時に、今後ともご指導ご鞭撻をお願いする次第です。

祝賀会の直前に「宇宙科学者としての50年」というテーマで西田会員にお話を伺った内容をインタビュー記事としてまとめて、宇宙科学研究所のホームページより公開しています。大変示唆に富んだ西田会員のご発言が並ぶこのインタビュー記事を、この機会に会員の皆様にもご覧いただきたいと思いますので、下記を是非ご参照ください。

インタビュー記事 URL : <http://www.isas.jaxa.jp/j/topics/topics/2013/0305.shtml>

「Conductivity Anomaly 研究会」

分科会

平成24年度活動報告

大志万直人・山口覚・後藤忠徳

1. 平成24年度 Conductivity Anomaly 研究会の開催

平成24年度の Conductivity Anomaly 研究会は、東京大学地震研究所・共同利用研究集会「柿岡の地磁気観測百年ー地球物理学に果たす役割ー」(研究代表者 山口覚) および京都大学防災研究所・一般研究集会「防災科学における地磁気観測の成果と将来像」(研究代表者 後藤忠徳) の共催として、平成25年1月10日(木)・11日(金)、茨城県石岡市中央公民館において開催された。「柿岡」とは御存知の通り、石岡市柿岡に位置する気象庁地磁気観測所であり、平成25年1月1日に観測開始から一世紀を迎えた。同観測所がこれまでに地磁気精密観測の果たした役割は大きく、柿岡を含む精密地磁気観測点網で取得された高精度データは、国際リアルタイム地磁気観測ネットワーク (INTERMAGNET) を通じて準リアルタイムで配信されている。また、国内外の調査研究ー例えば地殻活動に伴う地磁気変動研究、地殻深部〜マントル構造調査を目的としたネットワーク MT 観測、陸域や海底における長周期電磁場観測等ーは、このような良質データの支えが無ければ、それらの大きな成果をえられなかった。そこで本研究会では、柿岡において全国の関連研究者が一同に会し、これまでの主として地表における地球電磁気観測を振り返り、そして地上における長期連続定点観測の重要性・必要性を見究め、国内外に発信していくことを目的とした。研究会は、「地磁気観測」「超高層分野との融合課題」「地震・津波」「火山」「遺跡・環境」「空中・海底観測」「リージョナル・グローバルスケールのインダクション」などのセッションで構成されており、2日間の発表論文数は口頭34件・ポスター33件、延べ参加者数は138名、参加機関数は24機関にのぼった。このうち招待講演として、地磁気観測に関しては河村謙氏(地磁気観測所元所長)、源泰拓氏(気象庁地磁気観測所)、Cengiz Celik氏(トルコ・ボアジチ大学)にご講演頂き、また巨大GIC研究に関して、藤田茂氏(気象大学)および片岡龍峰氏(東京工業大学)にご講演頂いた。またAdam Schultz氏(米・オレゴン州立大)には北米大陸における大規模電磁気アレイ観測に関する成果をご講演頂き、半田駿氏(佐賀大学)には地磁気観測等に基づく北部九州域の電気伝導度構造に関するご講演を頂いた。さらに本研究会に先立つ1月9日(水)には、百周年を迎えた地磁気観測所の観測施設見学会も開催

された。以上の多数の招待講演・一般講演や見学会・懇親会を通じて、理学・工学、大学・研究所、さらに省庁の壁も越えた横断的な専門家による活発な議論や情報交換がなされ、研究会として有意義なものであった。



2. 分科会打ち合わせ会

平成 24 年度は、以下のように計 3 回の研究打ち合わせ会を実施した。

第 1 回 2012 年 5 月 24 日 (木) 幕張メッセ国際会議場 101B

第 2 回 2012 年 10 月 21 日 (日) 札幌コンベンションセンター C 会場

第 3 回 2013 年 1 月 10 日 (木) 石岡市中央公民館

主な議題は、

- ・平成 24 年度、平成 25 年度研究会について
- ・直流送電計画についての情報交換と対応について

- ・SGEPSS 将来計画に関する意見交換
- ・地震・火山噴火予知研究計画関連の情報交換
- ・地磁気誘導電流 (GIC) 研究についての紹介と参画呼びかけ

などであった。

なお、第 1 回打ち合わせ会において「電気伝導度構造・地殻活動電磁気研究についての将来計画検討会 (第二回)」をグループディスカッション形式で開催した。分科会固有テーマの進展方向や将来計画、大型プロジェクトにおける研究の方向性、グループとしての分科会のあり方等を題材に熱心な議論が交わされ、SGEPSS 将来計画の策定に向けた検討材料の提示が行われた。

SPGESS supports US Scientist to Attend Conductivity Anomaly Research Society 2013

Adam Schultz

College of Earth,
Ocean and Atmospheric Sciences,
Oregon State University



I wish to thank SGEPSS for the financial support that made it possible for me to attend the Conductivity Anomaly Research Society's annual meeting at the Kakioka Central Community Center in January 2013, which also commemorated an internationally significant event; the 100th anniversary of the Kakioka Geomagnetic Observatory. Kakioka observatory has long held in great regard by me, since magnetic field recordings from Kakioka and the rest of the Japan magnetic observatory network were of central importance to my own PhD research in the 1980's. The importance of the highest possible quality data from Japanese magnetic observatories continues to this day as our ability to utilize such data for more detailed three-dimensional imaging of the Japan and East Asia region is starting to reveal important information on the fate of subducted plates and their impact on the hydration of the Earth's mantle.

While attending the Kakioka meeting, I presented an invited talk "Magnetic

observatories and transportable magnetotelluric observatory arrays: imaging the Earth's interior on planetary, continental and local scales", where I presented results on 3D imaging of the Earth's mantle using data from the global magnetic observatory network. The talk also included 3D imaging results from continental-scale magnetotelluric arrays that I have been installing on a regular 70 km station spacing grid through the US National Science Foundation EarthScope Program. At present this effort has completed instrumenting the northwest quarter of the continental US, and it is currently instrumenting the mid-continent region. I also reported on finer-scale magnetotelluric work to image the dehydration of the Juan de Fuca plate as it subducts under the Cascadia region in the US Pacific Northwest; on current work imaging the fine scale structure of the magmatic system beneath the Cascade volcanic arc; and near surface scale efforts to image fluid injection in an Enhanced Geothermal System in the US state of Oregon. Many of these topics resonate with Japanese scientists because of the similar tectonic and volcanic settings that are mirrored across the Pacific Ocean.

The SGPSS support to allow me to travel to Kakioka made it possible for me to present a 90 minute long talk on the same subject, but in considerably greater detail, at the University of Tokyo Earthquake Research Institute on the 8th of January, where I met with and conferred with colleagues. Prior to the Kakioka and Tokyo meetings, I spent the first week of January traveling to Kyoto to confer with colleagues at Kyoto University on several mutual areas of interest. As part of these discussions, we finalized details of a proposed extended research visit to my laboratory by a PhD student at Kyoto University, who is visiting us through

this summer. This is part of a long-standing tradition of exchanges between my laboratory and Japanese scientists that, over the years, has resulted in many interactions and publications in electromagnetic induction imaging and in hydrothermal research. My thanks to SGPSS for rekindling these interactions, and helping to refresh our contacts with a new generation of Japanese scientists.

気象庁地磁気観測所の デジタルデータ ダウンロードサービス 源 泰拓

気象庁が観測している地磁気・地電位差・大気電場のデジタルデータを、webサイトから入手できるようになりました。利用可能になっているのは、0.1秒値までのデジタルデータとメタデータです。メタデータとは、「データ自身についての付加的なデータ」のことで、観測点の緯度経度や使用している測器の種類、データの存在する期間などが含まれます。地磁気デジタルデータが提供されている観測点、提供開始年月は表のとおりです。

表 地磁気デジタルデータ提供観測点と提供開始年月

	one-hour	one-minute	one-second	0.1-second
Kakioka	Jan 1924	Jan 1976	Apr 1993	Jun 1997
Memambetsu	Jan 1958	Jan 1985	Apr 1997	Apr 1997
Kanoya	Jan 1958	Jan 1985	Jun 1996	Jun 1996
Haraigawa	none	Jan 2013	Jan 2013	none
Chichijima	Feb 1973	Feb 1989	Nov 1993	none

メタデータおよび各種デジタルデータには、当所の英語版 web サイト

<http://www.kakioka-jma.go.jp/metadata/> からアクセスすることができます。データは、テキストファイル (IAGA2002 フォーマット) で提供されます。また、メタデータは xml 形式で表示・保存することができます。

これまで京都大学地磁気データセンター等から地磁気の1時間値、1分値および1秒値が提供されてきましたが、地磁気観測所のwebサイトでは新たに0.1秒値と地電位差と大気電場のデジタルデータも利用可能です。さらに、柿岡の過去の地磁気アナログ記録(吊磁石計で記録

された印画紙)からデジタル化されたデータも順次公開されていく予定です。

なお、このデータダウンロードは研究者向けのサービスです。商業的な利用はご遠慮ください。また、データを利用した成果を公表する場合には、地磁気観測所のデータを利用したことを謝辞等に明記してください。皆様のご利用をお待ちしています。

助成事業公募のご案内 公益財団法人 宇宙科学振興会

公益財団法人宇宙科学振興会は宇宙科学分野における学術振興を目指し、2013年度も引き続き下記の助成事業を行います。それぞれの応募要項の詳細は当財団のホームページ：<http://www.spss.or.jp> にございます。それぞれの公募に対する応募申請に際してはホームページご参照の上、申請書をダウンロード・作成いただき必要な書類を添付の上、財団宛に電子メール(admin@spss.or.jp)で申請いただけます。奮ってご応募いただくようご案内申し上げます。

なお、2014年度より国際学会出席旅費に対する応募回数、適用期間を変更するために、今年度は国際学会出席旅費に対する各応募締め切りの適用期間が不規則になっておりますのでご注意ください。

(1) 国際学会出席旅費の支援

●支援対象

宇宙理学(地上観測を除く)および宇宙工学(宇宙航空工学を含む)に関する独創的・先端的な研究活動を行っている若手研究者(当該年度4月2日で35歳以下)、またはシニアの研究者(当該年度4月2日で63歳以上かつ定年退職した者)で、国際研究集会で論文発表または主要な役割などが原則として確定している者。

●助成金額・件数:一件あたり10～25万円程度、年間10件程度

●申し込み受付時期

応募締め切り 2013年5月15日:

2013年7月1日～2013年10月末日の間の
出発者対象

応募締め切り 2013年9月15日:

2013年11月1～2014年3月末日の間の出
発者対象

応募締め切り 2014年1月15日:

2014年4月1日～2014年9月末日の間の出
発者対象

(2) 国際学会開催の支援

●助成対象

宇宙科学研究を推進している国内の学術団体(研究所、大学等)で、宇宙理学(地上観測を除く)及び宇宙工学(宇宙航空工学を含む)に関する国際学会、国際研究集会の国内開催を主催しようとする団体。

●助成金額・件数:一件あたり30～50万円程度、年間3～5件程度

●申し込み受付時期

応募締め切り 2013年7月15日:2013年10月1
日～2014年3月末日に開催の国際学会対象

応募締め切り 2014年1月15日:2014年4月1日
～2013年9月末日に開催の国際学会対象

●照会先

公益財団法人宇宙科学振興会事務局

<http://www.spss.or.jp>

〒252-5210

神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1

Email: admin@spss.or.jp

Tel: 042-751-1126

衛星設計コンテストのお知らせ

第21回 衛星設計コンテストの募集が開始されました。

4月1日(月)～5月31日(金) 参加登録受付
期間

5月7日(火)～7月12日(金) 応募作品提出
期間

詳細は衛星設計コンテストのウェブサイトをご
覧ください。

<http://www.satcon.j>

学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール

積極的な応募・推薦をお願いします。詳細は学会ホームページを参照願います。

賞・事業名	応募・推薦／問い合わせ先	締め切り
長谷川・永田賞	会長	2月28日
田中館賞	会長	8月31日
学会特別表彰	会長	2月28日
大林奨励賞	大林奨励賞候補者推薦委員長	1月31日
学生発表賞	推薦なし／問合せは運営委員会	
国際学術交流若手派遣	運営委員会	5月11日、7月20日、10月10日、1月23日
国際学術交流外国人招聘	運営委員会	若手派遣と同じ
SGEPSS フロンティア賞	SGEPSS フロンティア賞候補者推薦委員長	2月28日
国際学術研究集会	運営委員会	7月20日

SGEPSS Calendar

- '13- 5-14 ~ 17 Meeting of the Americas (AGU) (Cancun, Mexico)
- '13- 5-19 ~ 24 日本地球惑星科学連合 2013 年大会 (幕張)
- '13- 6-24 ~ 28 AOGS 10th Annual Meeting (Brisbane, Australia)
- '13- 7- 8 ~ 12 Magnetospheres of the Outer planets Group (Athens, Greece)
- '13- 10-6 ~ 11 45th Annual Meeting Division for Planetary Science (Denver, USA)
- '13- 12-9 ~ 13 AGU Fall meeting (San Francisco, USA)

地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS)

会長 中村正人 〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台 3-1-1 宇宙航空研究開発機構
宇宙科学研究所

TEL: 050-3362-3936 FAX: 042-759-8205 E-mail: nakamura.masato@jaxa.jp

総務 篠原育 〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台 3-1-1 宇宙航空研究開発機構
宇宙科学研究所 学際科学研究所

E-mail: iku@stp.isas.jaxa.jp

広報 吉川一朗 (会報担当) 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学
大学院理学系研究科地球惑星科学専攻

TEL: 03-5841-4577 FAX: 03-5841-4577 E-mail: yoshikawa@eps.s.u-tokyo.ac.jp

吉川顕正 (会報担当) 〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学
大学院理学研究院地球惑星科学部門

TEL: 092-642-2672 FAX: 092-642-4403 E-mail: yoshi@geo.kyushu-u.ac.jp

尾花由紀 (会報担当) 〒572-8530 大阪府寝屋川市初町 18-8 大阪電気通信大学
工学部基礎理工学科

TEL: 072-824-1131 E-mail: obana@isc.osakac.ac.jp

運営委員会 (事務局) 〒650-0033 神戸市中央区江戸町 85-1 ベイ・ウイング神戸ビル 10 階
(株) プロアクティブ内 地球電磁気・地球惑星圏学会事務局

TEL: 078-332-3703 FAX: 078-332-2506 E-mail: sgepss@pac.ne.jp

賛助会員リスト

下記の企業は、本学会の賛助会員として、
地球電磁気学および地球惑星圏科学の発展に貢献されています。

(有) テラテクニカ (2口)
〒208-0022
東京都武蔵村山市榎3丁目25番
地1
tel. 042-516-9762
fax. 042-516-9763
URL <http://www.tierra.co.jp/>

Exelis VIS 株式会社
東京オフィス
〒101-0064
東京都千代田区猿楽町2-7-17
織本ビル3F
tel. 03-6904-2475
fax. 03-5280-0800
URL <http://www.exelisvis.com/>

クローバテック (株)
〒180-0006
東京都武蔵野市中町3-27-26
tel. 0422-37-2477
fax. 0422-37-2478
URL <http://www.clovertech.co.jp/>

(有) テラパブ
〒158-0083
東京都世田谷区奥沢5-27-19-2003
tel. 03-3718-7500
fax. 03-3718-4406
URL <http://www.terrapub.co.jp/>

日鉄鉱コンサルタント (株)
〒108-0014
東京都港区芝4丁目2-3NOF 芝ビル5F
tel. 03-6414-2766
fax. 03-6414-2772
URL <http://www.nmconsults.co.jp/>

日本電気 (株) 宇宙システム事業部
〒183-8501
東京都府中市日新町1-10
tel. 042-333-3933
fax. 042-333-3949
URL <http://www.nec.co.jp/solution/space/>

富士通 (株)
〒261-8588
千葉県美浜区中瀬1-9-3
富士通 (株) 幕張システムラボラトリ
tel. 043-299-3246
fax. 043-299-3011
URL <http://jp.fujitsu.com/>

丸文 (株) システム営業本部
営業第一部計測機器課
〒103-8577
東京都中央区日本橋大伝馬町8-1
tel. 03-3639-9881
fax. 03-3661-7473
URL <http://www.marubun.co.jp/>

明星電気 (株) 技術開発本部
装置開発部
〒372-8585
群馬県伊勢崎市長沼町2223
tel. 0270-32-1113
fax. 0270-32-0988
URL <http://www.meisei.co.jp/>